令和６年度第３回総合教育会議　議事録

１　開催日時

令和７年２月 18 日（火）　13:15～14:45

２　出席者

（1）構成員	市　　長	園田　裕史
	教 育 長	遠藤　雅己
	教育委員	佐古　順子
	教育委員	中嶋　　剛
	教育委員	船橋　修一
	教育委員	朝長　昭光
	教育委員	宮本　真由美
（2）説明者	教 育 政 策 監	江浪　俊彦
	教　育　次　長	川下　隆治
	こども未来部長	杉野　幸夫
	教 育 総 務 課 長	楠本　奈津子
	学 校 教 育 課 長	堺　　邦寿
	大村市立図書館長	堀江　史佳
（3）事務局	企 画 政 策 部 長	山中　さと子
	企 画 政 策 課 長	三岳　和裕

３　協議

（１）大村市教育大綱について

（２）ミライｏｎ図書館の現状とこれからについて

４　その他

５　閉会

［資料］

１　大村市教育大綱（案）

２　ミライｏｎ図書館の現状とこれからについて

企画政策部長　山中　さと子

皆さんこんにちは。定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第3回総合教育会議を開催いたします。

それでは会議に入ります前に、お手元の資料の確認をお願いいたします。

配布しております資料は、会次第、出席者名簿、配席図、それから本日の議題の協議資料として、1. 大村市教育大綱（案）、2. ミライｏｎ図書館の現状とこれからについて。以上でございます。不足等ございませんでしょうか。

それでは早速、会次第に沿って進めてまいりたいと思います。開会にあたりまして、大村市長 園田裕史がご挨拶申し上げます。

大村市長　園田　裕史

皆さんこんにちは。本日は令和6年度第3回総合教育会議ということで、今年度最後になろうかと思いますが、大変お忙しい中、教育委員の皆様にお集まりいただきましてありがとうございます。

そして本日は、私48回目の誕生日でございます。へび年で年男で、この前富松神社で、初めて節分の豆まきをさせていただきました。60年に一度のへび年ということで、非常に珍しい年で、大村市においても、人口があと214人で10万人を突破するということで、節目となる令和7年かなと思っております。

この総合教育会議の後の定例教育委員会でも、令和7年度の教育方針、予算について説明があろうかと思いますが、非常にこの1年間、総合教育会議の中でも特に不登校、特別に支援を要するお子様の対応・対策についてご意見を頂戴しましたが、できる限りで予算を配分して、7年度から動き出すということを盛り込むことができました。

明日の福重小学校の竣工も含めて、近々には西大村中学校の体育館をはじめ、目白押しに小・中学校のハード整備が進んでいます。また、不登校対策については、学校に行かなくなったことが問題というより、その背景にあるいろんなご家庭の事情や世の中の変化など、子どもたちを取り巻く環境が昔とすごく変わってきていると思います。ただ、そこの解決は学校や教育業界だけではできません。人口が増えている一方で、町内会の加入率が低下していて、もう7割を切っています。これについても、3月に町内会の加入促進の条例を制定します。これは理念条例で、掛け声だけではどうにもなりません。実際にどうしたら町内会の加入率を上げることができるか、地域との関わり、そういったものに参加をして楽しいと思えるような実行策を少しずつ積み上げていくことが、核家族の家庭だけで子どもを見るのではなくて、フォローをしてもらっているという安心感に繋がって、結果的にそのご家族や子どもたちの心が楽になる部分があって、学校に行けたり、学校に行けなくても、船橋委員からもよくあるように、何か居場所ができると、1つずつ解決に向いていくのかなと思っております。

3月の議会で市議会からもいろいろと質問があろうかと思いますが、一朝一夕にいきませんので、その辺はじっくり、丁寧にやっていきたいと思います。予算に反映させていただいたり、いろいろと取組を新たにスタートしていきますけど、引き続き幅広い業界、幅広い年齢層の委員の皆様からご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

今日は、いつも時間が足りないので項目を減らして、どちらかというと情報提供と意見交換という、そんなに重たくはない議題になろうかと思いますので、ざっくばらんに意見交換ができればと思っております。

最後になりますが、前回の会議が11月ということで、この間で言うと本当に嬉しいのが、教育長がいつも「一芸に秀でる」ということを言っていますが、まず12月末の高校生駅伝、これは男子が鎮西でしたけど、2名が大村の子です。女子は諫高で3名が大村の子です。年末になって、ラグビーは手前味噌ですけど、うちの子どもも入ってま

すが、選手が3名、マネージャーが1名、長崎北陽台高校が全国大会出場、女子サッカーは鎮西が出て、3名が大村の子です。春高バレーは残念ながら大村工業ではないのですが、出場した鎮西高校にも3名大村の子がいます。そして、年が明けて1月4～5日に長崎ヴェルカと対戦をした横浜ビー・コルセアーズには、三城小・大村中出身でプロになった松崎裕樹選手が凱旋で帰って来ました。そのあと、郡中から鳥栖工業に行って、今山梨学院大学の2年生ですけど、レスリングの須田宝選手が、大学レスリング3冠です。全部日本一。3冠を取って帰って来てくれました。また、昨日は大学ラグビーで優勝して、4連覇した帝京大学のセンターで、三城小・大村中、北陽台高校出身の大町佳生選手が凱旋で帰って来てくれました。スポーツは本当にこうして活躍してくれていて、文化面も、小学生がピアノのコンテストで九州大会、全国大会に出場しています。また、竹松小学校の子がファゴットで全国大会3位。吹奏楽では、活水高校の子がマーチングで全国最優秀賞です。あとは西陵高校がマーチングで最優秀賞ということで、大村の子どもたちがすごく活躍してくれています。加えて、某大村市内の小学校から、私が聞いてるところでは1名、久留米附設に入学をする子がいるということです。今後も一芸に秀でる子と、こうして成績を上げている子たちも応援していきたいと思いますし、一方で、なかなか光が当たらなかったり、苦しんでいる子どもたちにも、同じように同じ力を入れてフォローしていけるように、令和7年度は特に頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

企画政策部長　山中　さと子

それでは、次第「3. 協議」に移ります。

ここからの進行は、大村市総合教育会議運営要領第3条に従いまして市長が行います。

大村市長　園田　裕史

それでは、協議に入ります。協議事項（1）大村市教育大綱について、でございます。事務局から説明をお願いいたします。

企画政策課長　三岳　和裕

教育大綱の策定について、説明させていただきます。

前回、11月19日に行いました総合教育会議意見交換会において、新旧対照も含め、教育委員の皆様に現行の教育大綱と来年度からの教育大綱案をお示しし、教育委員の皆様からのご意見をいただくこととしておりました。前回お配りさせていただきました内容からの変更点としましては、前回の意見交換会時に中嶋委員様からご意見をいただきました、項目5の「生涯学び続けることができるまちづくり」について、他の4項目と統一した方がいいのではないか、ということで「生涯学び続けることができるまちづくりの推進」とし、他の4項目と表現を統一したところです。

その他につきましては、ご意見等ございませんでしたので、前回お示ししていたとおり作成しております。

また、前回はデザインについては提供しておりませんでしたが、今回はデザインを含めたところで製本案としてお示しさせていただます。

デザインのイメージとしては、今回の大綱は五教館の精神を受け継ぎ作成しているということで、表紙に現在の五教館の御成門を掲載しました。

また、国語教育において標準的な形式として採用されている縦書きで標記し、過去の教えを受け継いでいるということを表現しています。

裏表紙には、本市出身の幕末～明治にかけての偉人を5名掲載しています。

今回お配りさせていただいた内容をご確認いただき、ご意見等がありましたらそのご意見を反映したあと、2月21日の議会全員協議会で報告し、3月中に市のホームページで公表という流れで進めていく予定でございます。

説明は以上となります。よろしくお願いします。

大村市長　園田　裕史

ありがとうございます。事務局から今ありましたけど、明明後日21日（金）の議会全員協議会で、この教育大綱と、教育委員会で策定をする教育振興基本計画の説明をさせていただきます。ご承知のとおり大綱は、首長として私が教育に関する方針を示すという内容ですし、そのことと併せて教育委員会で作る基本計画を具体的なものとして策定をして、関連性があるので両方説明をいたします。私としては、細かい内容と具体的な計画は、当然教育委員会の計画によるものなので、大きな方向性について、前回も5年前に作らせていただいたのですが、その時は天正遣欧少年使節であったり、そこの歴史にちなんで偉人をということで作らせていただきました。

この5年の間に、石井筆子さんをはじめとした大村市の偉人の方々の素晴らしさを子どもたちにも大人にも伝えていきたいと思い、特に石井筆子さんのＮＨＫの大河ドラマであったり、朝ドラの誘致をＮＨＫにプレゼンしていく中で、こんなに素晴らしい人がいるということを、僕らだけではなく市民の方々からも、どうにか朝ドラにならないのかというご意見が市役所に届いたりもしました。また、新型コロナウイルス感染症の取組として、公衆衛生においては長与専斎さんの基本的な考え方が日本を救ったと言っても過言ではないと思っていますので、改めてこの5年間で大村市の偉人の素晴らしさを感じました。

それともう1つは、一昨年、大村高校の正面玄関に、今里廣記さんの胸像が諏訪神社から移設されました。前教育委員でもあった嶋崎さんが中心になって、諏訪神社で誰も通らないような場所にある胸像が寂しそうだから、母校に移設するということで動かされました。また、昨年は大村高校の140周年で、私は卒業生ではないのですが、振り返ると本当に大村高校の素晴らしさというか、五教館からの流れを感じましたし、ここが幕末から始まる大村市の教育の1つの柱なのかなと改めて感じまして、無理矢理にでも「五」という数字にこだわって作り上げました。

これが最終案ということになりますけど、また皆様からのご意見をいただきたいのと、教育委員会の皆さんと意見交換をしていく中で、もう1つ力を入れた部分は、これまでよく「学校と家庭と地域が一体となって、教育を育んでいきましょう」というようなことを言われていたと思うのですが、あえて、これは教育委員会にもお願いをして、計画の中でも順番を変えてもらいました。「学校・家庭・地域」ではなくて、「家庭」が一番最初だということで、これだけ多様化する中で、学校のあり方などいろんなものが変わってきていて、その中で特に大きかったのは、遠藤教育長のマニフェストとして示されていた制服の変更ですね。多様性がこういった制服の変更にも表れているのですが、制服の変更と同時に校則も見直しました。だから今の中学1・2年生、3年生も含めて、制服は1年生ですけど、校則は、髪型はいわゆるツーブロックやポニーテール、靴下の色、肌着の色などを幅広く認めようということで、幅が広がりました。だからと言って、ＴＰＯに合わないものは学びに行くスタイルではないので、学校ではなくまずは家庭が言うことだというのが前提にないと、こういった多様性のある学びは成り立ちませんので、家庭を一番最初に示させていただいています。

この大綱と計画があわせて策定をされた際には、今教職員の働き方改革とか、いろんなご意見があって、一方では行き過ぎて教職員を苦しめるような電話があったり、クレームがあったりもします。そこにも毅然とした態度で、反省すべきは反省して申し訳ありません、教職員が間違っていることは間違っている、違ったことは違ってもいいのですが、そうじゃないときは毅然と「それは家庭でやることですよね、家庭でやってください。」と言えるように、そういったことも織り込んでまとめた渾身の大綱になっておりますので、ご意見をいただければと思います。

教育委員　中嶋　剛

まず、大村市の教育大綱というのは、ご承知のように市長部局で作成して、市長さんのご意向というのが色濃く出ているものでなければならないと考えます。だから、本来ならば、私たちが意見をするというのは、ちょっと憚れるという感じもします。しかし私、数日前にこの最終案という資料をいただいたのですが、これはちょっと直していいですか。

大村市長　園田　裕史

いいですよ。有難いです。

教育委員　中嶋　剛

本当にいっぱいあるのですが、何度もこれを読み直して、まず上の段の「大綱の趣旨」のところ、真ん中あたりの“近年、国際化、情報化、少子高齢化等に伴い教育を取り巻く環境が目まぐるしく変化している”。これは以前から言われてきているものですね。今非常に教育界、或いは経済界で叫ばれている新しい言葉というのは、結構使われていますね。例を言いますと、まず出てくるのがブーカの時代、それからグローバル化の時代、人生100年時代、ウェルビーイングの時代、ＤＸの時代、こういういろんな言葉が叫ばれていたり、教育界でもこのブーカの時代というのは、普段念頭に置かなければいけないことだということです。こういう時代が、ここのところに入っていない。多様性を理解・尊重するというと、これはもうちゃんと出ているのですが、ブーカ（ＶＵＣＡ）というのはご承知のように、変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の４つを表現しています。英語は難しくてよく読めませんでしたが、ブーカの時代と言われて、これをよく今使われています。どこかにこれは入れた方がいいと思う。この“近年～必要性が高まっています。”の３行の中に、というふうに私はまず思いました。

まず上だけです。下はまだいっぱいありますが。

大村市長　園田　裕史

大変ありがとうございます。ぜひそういう格好で、この３行を最新のものにブラッシュアップしたいと思います。

ちなみに、ブーカの時代ということで、船橋委員、何かありますか。

教育委員　船橋　修一

たしかに今ブーカの時代とよく言われていますね。市長が言われた、家庭を先にもってきたというのは非常に素晴らしいと思います。

一般論ですけど、よく言われているのは、「知性」と言いますよね。知性、知識、教養を兼ね備え、この「知性」を大きく２つに分けると、ブックスマートとストリートスマートと言われています。日本語でどう訳していいのか分からないけど、ブックスマートというのは、まさに学力、学校で学ぶことですね。だからブックスマートなんですよ。日本の教育はよく言われているのですが、このブックスマートは、あまねく行き渡っているけれど、問題はストリートスマート。これは体験をベースにした、行動で学ぶ知性ですね。よく西欧で、大学を卒業してバックパックで行くとか、日本では昔は次男坊、三男坊は、全国行脚の旅に出るというのがありましたが、この両立が大事だと言われているのです。日本ではブックスマート、いわゆる学力が高い人はいっぱいいる。そして、学力は足りないけど、経験でやっている人もたくさんいる。この２つを兼ね備えた人はほとんどいないと言われています。このブックスマートに関しては学校で学べます。ただ、ストリートスマートは、家庭環境、家庭の中で、どういう立場で学べるか。家庭がどう子ども達を突き放して、自然の中で身につけさせるかということが非常に求められる。その中に含まれるブーカであり、ウェルビーイングだと思うのです。というのは、前提条件が変わりますよね。これまではまさに多様性の時代と言われていました。でも、どこかでとある方が世界のリーダーになられたら、また政治の時代に逆戻りして、非常に単一的なものの見方になるでしょう。そうなってくると、これまでブックスマートで、学校で学んでいたことと真逆のことが起きて

くるわけですね。まさにもうブーカの時代なので、それを自分自身で判断していかなければいけない。家庭環境の中で、自分の子どもをいかに荒波にさらして、ブックスマートで学んだ知識を実践させていくか。行動においては真逆のことをやりながら、自分の中では整合性をとっていくというブーカの時代ですから、まずは家庭がしっかりしておかなければいけません。

学校で学ぶブックスマートについては、まさに多様性で、英語やいろんなことが出てきます。コンピュータの時代にもなってきている。もう日本でも、そろそろ１円玉をなくそうということを具体化しつつありますから。ということは、現金を使う時代ではなくなるということになってきますので、良いか悪いかではないのです。やるかやらないか、ということを次の世代が判断していかなければいけません。それはまさしくブーカとグローバルとウェルビーイングを考慮して行うと思いますので、市長の感性にお任せしたいと思います。

大村市長　園田　裕史

ありがとうございます。さっきの新しい概念ですね。これは５年間ですから、入れていければいいなと思っております。

皆さん他にないですか。宮本委員、何かないですか、子育て現役世代として。

教育委員　宮本　真由美

やはり家庭が大事だというのはすごく私も思います。家庭あっての地域だろうし、家庭あっての学校だろうし、というのはすごく大事なので、基本的に子どもが拠り所とするのは結局家庭ですし、親ですし、そこに力を注いでいきたいというのが私たち保護者なのかなと思います。ただ、そこに自信がないから、学校に助けを求めてしまう。学校のせいにしてしまう、地域のせいにしてしまう。そういう自分たちに自信がない保護者も多いというのも、すごく実感します。

私も塾をしていますけれども、私たちにすごく求められることも多いです。もう勉強以外にも、子どもを見てください、帰りがけにこういう声掛けをしてください、時々こういう話をしてください、こういう癖があるので注意をしてください、など学習以外のことまで私たちは見なければいけないところがあるので、そこはやっぱり家庭ではないかと私たちも思ったりもするので、まずは我が子を自分たちがしっかり見て、我が子が安心して学校に通えるように、地域で過ごせるようになれば、今度は私たちが我が子ではない、よその子や地域に通っている子たちも我が子のように見れるし、大切に思えるし、そうすると学校もまた違った見方ができるのではないかと思います。

大村市長　園田　裕史

ありがとうございます。今の部分で、“家庭・学校・地域が連携協力し”のところに、みんなで助け合うということがあると良いかもしれませんね。家庭だけでも不安があるし。

佐古委員、何かありますか。

教育委員　佐古　順子

先程のお話ですけども、“近年～必要性が高まっています。”のところをもう一回見直すということに対して、とても有難い話だと思います。コロナ禍でもそうですし、ちょっとしたことで生活が変わる。先程、良いか悪いかではなくてというお言葉がありましたけども、今は小学１年生からタブレットを授業で使用しますし、急速に変わっていくと思いますので、そこでどんな必要性が高まっているのかをもう一度見直すというのはとても大事だと思いました。

大村市長　園田　裕史

ありがとうございます。21 日の全協に出して、そこでも意見が出たら修正して最後に固めますのでばんばん言って下さい。三岳課長が取りまとめてくれると思いますので、私も最後確認したいと思います。

あと何か上の段で、大村高校ご出身の朝長委員からご意見はないですか。

教育委員　朝長　昭光

医療のことばかりやっているせいか、初めてブーカというのを聞きました。だいたい船橋委員からいつも聞いていたので勉強している方なのですが、中嶋委員も知っているなんて。ここの“近年～”とかの文章は黙って読んだら何も差し障りないのですが、せっかくいろいろ考えてされているならば、ぜひそういう形でしっかりやっていただけたらと思います。

大村市長　園田　裕史

ありがとうございます。今市で作っている総合計画とか、企画政策部が作る大村市の将来に関するものには、必ずと言っていいほどウェルビーイングという言葉を入れています。ただ、確かに教育部門では抜けていたと思います。逆に、教育基本計画の中にはウェルビーイングが入っていましたよね。この“近年～”というところに、そこをきっちり書くことができれば、大綱としても時代の変化を捉えていると思いますし、中嶋先生からあった、ブーカというさらに新しい概念も含めて入れ込むことができれば厚みがでてくると思います。今皆さんからご意見をいただきました前段のページについて、入れ込んでいきたいと思います。

引き続き、下の5箇条について中嶋委員お願いします。

教育委員　中嶋　剛

まず、5項目に集約されたことは本当に良かったと思います。前回は6つでしたね。これを五教館に合わせて5つにして、この中で大きな一、二、三、四、五とあるうち、“環境づくり”という言葉が3ヶ所も出てきます。余りにも多すぎやしないでしょうかというのが一つ。

例えば、一番目は市長さんが一番力を入れておられる、先程の話の中にありました、家庭教育の充実ですよね。だから、これを例えば、「健全な心身をはぐくむ家庭教育の推進」と、こういうふうにするかどうか。あとの二つは環境づくりを崩せないなと思っているのですが。

大きな項目の二番目、「すべてのこどもが安心して学ぶことができる」これを、普通私たちは、安全・安心という言葉を使いますね。だから、これも“安全”という言葉を入れた方がよくはないかということです。大項目はそれだけですね。

その次、四番目の解説についてです。“多様化する教育ニーズに対応するため、家庭・地域との連携の強化や”その次にこれを入れたらどうかなと。“民間や福祉施設と連携した支援や”と。だから、「家庭・地域との連携の強化や、民間や福祉施設と連携した支援や」、その次に“教員の配置”と書いてありますけど、「教員の有効的な配置」というふうにしたらどうかなと思います。

大村市長　園田　裕史

民間というのは、いわゆる民間企業とか事業所のことですよね。企業ですよね。

教育委員　中嶋　剛

はい。それから最後です。五番目の一番最後から2行目、“誰もがふるさとを愛し”の次にこれを入れたらどうか。「誇りを持ち」、“生涯学び続けることができるまちづくり”と。「ふるさとを愛し、誇りを持ち、生涯学び続けることができるまちづくり」としてはどうでしょうか。

また、不登校問題は大項目の何番目に位置すると考えられますか。

大村市長　園田　裕史

不登校については、ここでというところは特に触れていないのですが、例えば、1番の家庭だったり、2番、4番にも跨がるかなとは思います。

教育委員　中嶋　剛

全部で関わってくるということですね、特別に挙げなくて。一応これだけですね。

それと私この前、壱岐で教育委員の研究大会があって行かせていただいたのですが、その中で非常に感銘深い言葉がありました。県の次長さんが強調して言われたのは、ふるさと教育をとにかく推進してくださいと。これを特に強調されました。そして壱岐高校の話もそこで出ました。今度の高校選抜で選ばれましたけど、壱岐の子ども達ばか

りで構成をして本当にすごいことだとおっしゃっていましたが、確かにそうだと思います。それで、感銘を受けた言葉は、「ふるさとで、ふるさとのために活躍したいという子を育ててほしい。」です。そのとおりですね。これができれば本当にすごいと思います。こういうのは、この大綱の中に入れられるかどうか分かりませんけど、参考までに。

大村市長　園田　裕史

裏はいいですか。

教育委員　中嶋　剛

裏の解説はいりませんよね、大村市出身の偉人について、それぞれ書いてありますから。

大村市長　園田　裕史

解説はなくてもデザイン的には良かったのですが、入れた方がより分かりやすいのでいいかなと思います。ちなみにこれ全部、フォントもユニバーサルデザインフォント（ＵＤフォント）にして、誰もが読みやすい字にしてあります。縦書きです。

今、中嶋委員からあった細かい内容についてのご指摘、ふるさとについて、安全安心、有効的な、民間や関係機関との連携についても盛り込んでいきたいと思います。それと、“環境づくり”がダブっているので、ここをうちの安武君とも相談しながら、言葉を探してダブりが少ないようにして、せっかくここまで綺麗にまとめ上げているので、作りたいと思います。ありがとうございます。

他、皆さんありませんでしょうか。

教育委員　船橋　修一

言葉足らずだったので、さっきの多分ブックスマートだ、ストリートスマートだと言われても全然ピンとこないかもしれませんけど、知性の８割ぐらいは、知識だと言われています。やっぱり知識はすごい大事です。詰め込み教育でも何でも、知識は大事だと思います。だから、知識の伴わない経験主義というのは、新しいブーカの時代には対応できないと思うのです。ただ、このブックスマートは、進学して勉強していい大学を出たというだけでは、行動の伴わない知識の集合体では、何の役にも立たないということです。だから、おそらくこれからは日本の教育も、文理一体型になってくると思います。そもそも文系と理系を分けるのはナンセンスなので。それでブックスマートとストーリースマートというのは、今で言うと、ＧＰＵってご存じですか。画像処理のＧＰＵ。エヌビディアというのがすごく突然現れましたよね。今ＡＩの開発にはこのＧＰＵを何個も使うというのはすごく大事なのですが、1 個 500 万～1,000 万くらいします。このＧＰＵというのは、論理的な思考を画像化するのです。だから人間にもそれを求められています。これからの子どもたち、現在もそうですけど、それを頭の中で画像化、映像化できないといけないのですよ。これは非常に大事なのです。ブックスマートで学んだ知識を頭に詰め込んだら、他流試合をして、危機的な状況に自分を追い込んで、自分の体でそれを画像化する。シナプスとニューロンを頭の中に作らなければいけないのですよ。なので、例えば起業をするとか、あえて留学をするとか、そういったところで他流試合をしていくと、頭の中にどんどんニューロンができてきて、いろんなアイデアをつなげて画像化していく。非常に大事なところなので、特にこのストリートスマート、環境を与えるのは家庭なので、家庭が大事だというのは、しつけを超えた、子どもに限界を与えないというところですね。だから宮本委員も、しつけまでやってくれというご家庭には、それはもう家庭でやってくださいと言われた方がいいと思います。そういったことがあるので、ぜひ皆さん共通でやっていただけないかなと思います。スポーツを素晴らしいと言うのはまさにそこではないですか。全く違った環境に行って、そこで勝負するのは自分ですから。練習してきたことを発揮する。その中で体と脳が鍛えられるのです。よく言われているのですが、微分積分は解けないかもしれないけど、飛んでいったボールはダーッと走って行ってダイビングキャッチしますからね。あれはその選手の頭の中で計算し

ているわけですよ。計算して、どれだけのスピードで走って行ってジャンプしたら取れるっていうのを、瞬時に何の方程式も使わずに計算しているのです。そういうのがまさしく、ブックスマートとストリートスマートの集合の結果だと思います。

大村市長　園田　裕史

ありがとうございます。本当に幅広いご意見とご指摘を、追記も含めて頂戴できましたので一旦持って帰ります。明明後日の金曜日が全員協議会ですが、そこまでにはちょっと間に合わないので、一旦議会にはこれで出して、今日教育委員さんからいただいたご意見や、議会からも何か意見が出るかもしれませんので、そこを持ち帰って、最終的に大綱としてまとめたいと思います。これについてはパブリックコメント等をすることもなく、私の中で、市長部局として決定をしていきます。そういった形で最終的に完成させたいと思います

教育委員　朝長　昭光

いろいろ話を聞きながら思ったのは、先日小学5年生の国語の授業に行ったときに、バックキャスティングという言葉を耳にしました。将来10年先とかに大村の教育、学校がどうあるべきで、どういう子ども達が育っていくかとか、そういうことが見えるような文章があるのかなと思って見ていたのですが、先程中嶋先生が言われた県の次長さんの言葉「ふるさとのために活躍したい子どもを育てたい」とか、そういうのがバックキャスティングかと思いまして、バックキャスティングが分かるような文章があればいいのかなと感じました。

大村市長　園田　裕史

ありがとうございます。今まさにその部分について、「大綱の趣旨」のところの、“近年～”を、ご意見いただいた形に変えて、将来的に世の中や教育の現場が変わっていく中で、やっぱりふるさとを、というところを目指したいので、だからこそ今、これからの5年間という形でまとめられるように入れたいと思います。ほんとにそうですね。将来こうなりたいから、バックキャスティングで5年後に向けて作っていこうと思います。

大変素敵なご意見を皆さんから頂戴できまして、より良い形になるかと思いますので。私と山中部長でまとめ上げたいと思います。

それでは、次の協議事項にまいりたいと思います。協議事項 (2) ミライｏｎ図書館の現状とこれからについて、でございます。

ちょうど昨年5周年を迎えまして、累計200万人を達成しましたので、このタイミングで1回おさらいをしたいということと、ここはざっくばらんに皆様方からの感想、今後の展望、厳しいご指摘も含めて頂戴できればと思います。次につなげたいという趣旨で議題に挙げさせていただきました。では、事務局からお願いします。

大村市立図書館長　堀江　史佳

ミライｏｎ図書館の現状とこれからについて、ご説明したいと思います。よろしくお願いします。

先程市長からもお話があったように、この10月に開館5周年、12月25日に来館者数200万人を達成するなど、本年度は節目の年となりました。

下の(2)のグラフをご覧ください。開館以来、来館者は増加傾向にあり、都道府県立図書館の中で全国6位と健闘している一方で、全国2位ではありますが、貸出冊数は減少傾向にあります。社会全体の読書率低下が影響していると考えられますが、図書館にとって大きな課題です。

次に、これまで5年間の取組についてですが、大きく5つの取組をあげたいと思います。

(1)イベントの実施。図書館を市民に活用していただくための第一歩は、まず来館していただくことであると考えております。図書館の魅力や機能を知っていただくための契機となるよう、幼児から大人の方まで、様々なターゲットを想定してイベントを実施しております。写真の左は、季刊誌樂という雑誌がございますけれども、その発行人の糸屋さまをお招きし、編集のお仕事や長崎への思いをお話いただいた講演会で、右は大村市で活

躍されている書道家の佐藤鳳水さまをお招きして、書道のワークショップと共に書道パフォーマンスや仕事のお話をしていただいた時の写真です。

次のページは(2)地域貢献と連携です。市・県の関係部局や市民団体と連携し、地域の活性化を目指し、様々な取組を実施いたしました。図書館だけでできることは限られていますが、様々な組織や団体と連携することで、地域に貢献できることが増えると考えております。写真の左は、障がい者施設ネットワーク協議会や青年農業者会と共に農福連携の取組を紹介するためのマルシェ、右は中央商店街アーケードとの連携を深めるために企画したまちあるきイベントです。

3つ目は、電子書籍サービスの開始です。多様な読書ニーズに対応するため、令和5年2月に電子書籍サービスを開始し、現在3,309タイトルを提供しておりますが、今年度末までに3,708点になる予定です。また、全国初の図書館アプリを開発し、利用者の利便性向上を図っています。

4つ目は、アウトリーチ活動です。図書館内での活動に加え、研修会や出前教室への職員派遣、外部イベントでのブースの設置、障がい者支援団体との連携企画など、館外での取組を進めています。これにより、図書館がより多くの人にとって身近で親しみやすい存在となるよう努めております。

(5)は施設の運用です。ミライｏｎ図書館では、資料だけでなく、閲覧・学習スペースを広く提供しております。読書や調べもののための利用や学習スペースとして、また仕事場として、利用者のニーズに応じ、活用されています。

また、開館以来、現在では2つ目の事業者がカフェを運営しております。カフェがあることで、飲食が楽しめ、長期滞在しやすくなり、利便性が向上します。また、市民の交流の場にもなります。事業者さまの努力により、経営も好調です。このような設備の充実は、ミライｏｎの大きな魅力の一つであると考えております。

最後に、3.課題です。こちらは4つあげたいと思います。

1つ目は、認知度の向上です。ミライｏｎ図書館の機能や魅力がすべての市民に浸透しているとは言えません。図書館を知っていただき、来ていただき、活用していただくために、図書館情報の発信やイベントの開催、資料整備などを通じて、利用者等の拡大を目指す必要があります。

2つ目は、貸出利用者の減少です。先程もあげたように、全国的な図書率の低下が大きな課題ですが、図書館が「知の拠点」として活用されるよう、図書館の魅力を発信しながら、利用促進を図る必要があります。

3つ目は、運営経費の増大です。年々人件費や物件費の高騰が進む中で、どうすれば持続可能な運営を実現することができるのか、方法を模索していく必要があります。

4つ目は、人材の確保です。図書館には多くの職員が在籍し、業務を支えています。人口減少社会の中での人材確保や図書館職員の専門性の維持は、将来的に大きな課題です。限られた予算と人員の中で優先順位を考えつつ、地域に貢献できる図書館運営を目指す必要があります。

以上がミライｏｎ図書館の概要でございます。様々な取組を通じて、ミライｏｎ図書館が地域に愛される存在になりますよう、私達も力を尽くしてまいりたいと思います。今後ともご協力をどうぞよろしくお願いいたします。説明は以上です。

大村市長　園田　裕史

ありがとうございました。ちょうど5年間が経ち、振り返ってもう1回図書館を良いものにできるようにしていきたいなと。特にどちらかと言うと、図書館に従事している館長をはじめ、スタッフ、学芸員、司書さん等ではない、外から図書館を見たときの意見をぜひ頂戴して、より良いものにするため、中からはなかなか気づかない部分も含めて教えていただきたいなと思って、今回議題として上げさせていただきました。また同時に5

年間を振り返ると、うち3～4年間はコロナと丸かぶりして、思ったようにできなかった部分もありはしましたが、その中でできる方法が何なのか、どうやったらできるかということを考える訓練にもなったなと思っています。

これは私の個人的な感想なのですが、ミライｏｎがオープンするときにすごく力が入りましたし、よく一般的に今も人気だと聞いていますが、武雄図書館と指定管理者等を比べられたりしていた時期でのオープンで、武雄が先行してオープンして、コロナの前ですが年間100万人を達成したと。ご承知のとおりTSUTAYAが運営して、TSUTAYAが入って本を売って、スターバックスが入っていて、コーヒーを飲みながらとか、デザイン的にも素敵だなと思います。ただ、ミライｏｎと比べたときに、収蔵能力は10分の1ぐらいです。ミライｏｎが202万冊で、武雄は多分20万冊ぐらいではないでしょうか。正直、あそこに負けないように、県が目標として立てた60万人では駄目だと思って、1つの視点としては図書館に今まで行っていなかった人、本をなかなか読まない人、借りない人も行きたくなる図書館になればと思っていました。その部分は今も変わらず大事で、特にこの5年間も、とにかく今まで足が向かなかった人も向けられるようなイベントを開催してほしいということで、音楽のイベントから、先程ご紹介があったようなイベントまで、堀江館長になってからは特にお庭がすごく素敵なので使ってほしいということと、そこで何か賑わいを発信することができれば、今まで足が向かなかった人も行きやすくなるので、ぜひ外を使ってほしいと言っていて、そういったことも少しずつできています。ただその中で、この前、総合開発審議会という会議のときに委員の方から、こんなふうに言われたのです。「図書館は図書館であって、イベント広場ではないのです。」と。ミライｏｎ図書館はとても素敵で、シーンとした空間に、1階は子ども達がいたり、2階に学生がいて勉強をしていたり、本を静かに読む人がいて、図書館として果たすべき機能がきっちりあの図書館には表れていると。流されることなく、図書館としてのプライドを持った図書館だ、みたいなことをおっしゃったのです。私もハッとして、本当にそうだなと、この5年間を振り返らせていただきました。ただ、一方で今まで足が向かなかった人が、イベントで大騒ぎするということではなくて、足が向くようなものを、イベントとしてはやりたいですし、図書・文化だけではなく、芸術・技など、大村には美術館がないわけですから、そういったものも発信できるような場所にしてほしいというのを、5年間を振り返って思ったところです。

ただ、何でもいいから100万人いけばいいとか、人が来ればいいということではなく、図書館とは一体どういう場所で、しかも県立と一緒の、県市一体型の図書館というものが、どういう場所なのかということは、色んなご意見を聞いて、ハッとさせられました。来館者数に一喜一憂することなく、図書館として自分たちの目指すものをしっかり進めていきたいと思います。

佐古委員いかがでしょう。

教育委員　佐古　順子

今、現状とこれからの課題ということを聞かせていただきまして、とても立派な施設を私たちも市民として利用しなくてはいけないなと感じました。今お話にありましたように、202万冊もの収蔵能力があり、また、電子書籍サービスを開始されたということで、その辺をもう少しアピールして認知度を上げること。それから新幹線が佐賀県の方までつながりましたので、足を運んでいただけるような魅力的な図書館であるということは皆さんご承知なのですが、その次にどうやって足を運んでいただくかということを、もう一度皆さんで考えていきたいと思います。

大村市長　園田　裕史

ありがとうございます。宮本委員、率直に感想とか、もっとこうなったらいいなとか、こんな声

が保護者や子ども達から聞こえてくるとかがあれば教えてください。

教育委員　宮本　真由美

私も図書館は大好きで、ミライｏｎに限らず近くの郡コミセン、竹松住民センター、福重のところ、あと学校の図書室もすごく好きなので、私は個人的にボランティア活動もしておりまして、やっぱり本は子育てにすごくいいんだよと、年配の方々からよく教育を受けました。

ミライｏｎは1人50冊まで借りれて結構期間も長いのですが、なかなかほしいと思ったときに本がないのと、私としては、郡コミセンや地区の公民館にある図書室の方が、すごくいろんなことを聞きやすかったりします。やっぱりちょくちょく行くから向こうの方も覚えてくださって、こういう本好きですよねとか、ちょっと部屋の配置変わりましたよとかお話したり、そうやって気軽に行けるのが地区のコミセンなのかなと思います。ただ、新聞に載った本であるとか、ちょっと専門的なことを聞きたいときにはミライｏｎを伺うのですが、ミライｏｎのカウンターで以前お話を伺ったときに、「ちょっと私には分かりません。」と言われて、そこでお話が止まってしまった場合とかもあって、この先どうしたらいいんだろうと思ったこともあります。私たちが図書館に入ったら、皆さん専門の方だと思っているので、聞いたら誰でも答えられると普通に思ってしまって、そういうふうに分かりませんと言われたら、「そうなんですね。」と言って帰るしかないというか、パソコンで調べるしかない。私たちは図書館に行って専門的な方のお話を聞きたい。こういった本を探しているんですけどとか、こういう作家さんを知りたいんですけどとか、ちょっと専門的なお話を聞きたいときは誰に相談したらいいのかなと思って、誰でもいいよとは言ってくださるのですが、そういう窓口とかもあったらいいのかなと個人的には思います。

ミライｏｎ図書館は、私も園田市長と同じ考えで、大村にはとても立派な図書館ができて、本当に大村らしいというか、大村だからこの図書館があるんだよねと子ども達も思えるような図書館になってほしいと思います。それこそふるさとに帰って来るというか。そういう図書館になってほしいと思います。

大村市長　園田　裕史

ありがとうございます。レファレンスについて、お願いします。

大村市立図書館長　堀江　史佳

今、調べもののご相談のときに、「ちょっと分かりません。」と言われたということで、申し訳ないです。レファレンスカウンターに正規の職員が常駐しておりますので、そちらに繋ぐのが本来のあり方なのですが、大変失礼いたしました。その日にお答えできなくても、お調べしてできる限りお答えしたいと思いますので、レファレンスカウンターにご確認いただければと思います。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

大村市長　園田　裕史

確かに雰囲気がシーンとしているから、聞いていいのかなという感じがしますよね。だからスタッフが声掛けをしたらいいかもしれませんね。確かに郡コミセンとは雰囲気がちょっと違うでしょうね。そっと入って行く感じですよね。

大村市立図書館長　堀江　史佳

おっしゃる通りかもしれませんので、レファレンスカウンターを、「何でもお聞きください」みたいなＰＲもしていきたいと思いました。

大村市長　園田　裕史

ちなみに、カウンターはどこにありますか。

大村市立図書館長　堀江　史佳

1階と3階にカウンターがございまして、1階ですと入って一番奥のところですね。3階ですと、正面から入って一番右側がレファレンスカウンターです。そちらの案内の方も増やしたいと思います。

教育委員　船橋　修一

今ミライｏｎに大学生とかが、どのぐらい来ているか把握されていますか。

大村市立図書館長　堀江　史佳

見たところ、大学生らしい人はあまり多くはないですね。大学生自体が大村に通学されている方がそんなにいらっしゃらないのかもしれませんが、中高生は多いです。

教育委員　船橋　修一

実は県内の大学のサークルに関わったりしているのですが、今どこの大学も人手不足で、勝手に施設を使えなくなっています。昔みたいに空いた教室に集まることもなかなかできないのです。それで、例えば長崎市だったらメットライフ生命が１階を無料で貸し出してくれるので、いろんな大学生も交えたサークルが集まってワイワイやっています。波佐見町のスタジオなども大学生が集まりやすい。ミライｏｎには集まらないのかと聞いたら、「ミライｏｎって集まれるんですか。県立図書館だとお金が高かったりするので。」と言うのです。ここから先はアイディアなのですが、大村に大学はないけれども、大学生はいるのです。大村から長崎や佐世保に通ったり、活水の看護もありますので、その子たちがサークルで集まるときに、ミライｏｎで僕もよくイベントに参加しますけど、ほとんど私と同世代か、私以上の方が集まっていますよね。以前マルシェに行かれた方が、イベントに集まった人がご高齢の方ばかりでびっくりしたと言っていました。もうちょっと若い人にも集まってほしいので、大学生を呼び込む、あれだけのスペースと蔵書があれば、サークルで集まったときに資料探しができますよね。そこは何とかツテがあるのかなと思います。例えば部屋を借りたときの料金の問題とか、大学生に学割がきくのかどうかとか、そこは考え方だと思うのです。今の大学生は、車やバイクに乗る人が少ないので、駅から５分で来れるというのも魅力です。大村に大学はないけれども、県北と県央の学生が集まりやすい１番のスポットでもあるのかなと。私も行くので分かりますが、高校生は来ていますよね。大学生らしき人は、いないことはないけど少ないと思います。メットライフは集まってワイワイ話すことはできますが、資料も何もありません。また、ミライｏｎサテライトには駐車場がありません。下の駐車場となるとお金がかかりますよね。

学生が集まると、それにいろんな他のイベントを組み合わせやすいですよね。例えばマルシェを出しても、なかなかマルシェにマッチしないご高齢の方々がいっぱいいてはミスマッチかなというのがありますよね。

大村市長　園田　裕史

ありがとうございます。確かにそうですね。

教育委員　朝長　昭光

先ほど宮本委員が言われた、カウンターに行かないと相談ができないという話を聞いて思ったのが、例えばレストランに行くと、言いたいことがあるとき、向こうにある受付まで行くのは面倒くさいけど、たまたま物を運んできた人がいたら「ちょっとちょっと」と声をかけたりできるので、図書館も、職員と分かるような格好でウロウロする人がいると、声をかけやすくて、そういう情報が伝わりやすいかなと。

それと、施設の維持管理経費というのは、市が出しているのですか、県が出しているのですか。

大村市長　園田　裕史

折半です。

教育委員　朝長　昭光

予算がなくて大変ということですか。

大村市立図書館長　堀江　史佳

どんどん経費が上がっているので。

教育委員　朝長　昭光

大村市はボートあるから、あまりふるさと納税はしていないのですが、図書館でふるさと納税はされないのかと思いまして。何をするかと言うと、寄附をしてくれた人に対して本を貸してあげるのです。そういうことが活用できたら本を貸し出すこともできるし、いろんな人が利用できるので、

ふるさと納税を活用されてはどうかなと思います。

それともう一つは、船橋委員が言ったように学生を集めることについて、例えば地元の人だったら、部屋を使っていいけどボランティアを何かしてとか、人材が足りないので、学生さんは結構手伝ってくれると思います。部屋を無料で使っていいから、何か困ったときに連絡するから手伝ってほしいと言えば、来てくれるのではないかと思います。そういうのも役に立たないかなと思いました。

教育委員　船橋　修一

人材について、アルバイトを募集されているかどうか分かりませんが、インターネットのバイト求人がありますよね。実は、我々の波佐見のグループは本当に人が集まりませんでした。ところが、インターネット求人の場合、波佐見とか早岐とか、あの辺りでも接客業経験者の奥様とかが結構いらっしゃって、短時間のバイトでも本当に助かっています。大村は自衛隊も多く、非常に優秀な方もいらっしゃると思います。もしかしたら司書の経験がある方もいらっしゃるかもしれません。そういうのがマッチングすると、かなり来ますよ。全く素人の人を採用するよりも、経験のある人を短時間で、きちんと時間設定をして、ご活用されてはいかがかと思います。

大村市立図書館長　堀江　史佳

ありがとうございます。

先程、レファレンスの職員が誰か分からないということでしたが、一応スタッフはエプロンを付けています。その中でも、専門性が高い正規職員と、会計年度任用職員がいるものですから、そういったご質問等があったら、きちんと繋げるように徹底したいと思います。

教育委員　朝長　昭光

たすきでもかけてウロウロしてみてもいいかもしれませんね。

大村市立図書館長　堀江　史佳

そうですね。「何でも聞いてください」みたいなハードルを低くすることも大切なのかなと思います。あと、直接来ていただかなくても、ミライｏｎのホームページから、ウェブでレファレンスを受けることができます。そういったこともサービスはしているのですが、なかなか周知ができておらず活用されていないという部分もあるので、そういったこともしっかりやっていきたいと思います。

あと、ふるさと納税の活用についてですが、数年前までは本の購入にふるさと納税を充てて活用してたという経緯があります。

それと人材不足について、今は確保できているのですが長崎県自体がどんどん人口が減っていて、図書館だけではなく、例えば市の会計年度任用職員も結構人の入れ替わりがあっている状況もあったので、こういったものも将来的な課題になるのかなと思い今回あげさせていただきました。いろいろなご意見、ありがとうございました。

教育委員　中嶋　剛

5年間経って、200万人を突破したということはすごいと思います。私はいろいろな物事をやるときに、5年間経って1つのスパンが終わったと考えます。そうすると人間の気持ちとして、もう1回初心に返ることが、職員一同必要ではないかと思います。そして、いろいろと問題点を職員間で洗い出して、よし、これで次の5年間やっていこうとなるわけです。

課題の(1)、(2)に、認知度の向上と、利用者の減少が非常に問題だとあります。だから、認知度を向上させるためにはどうすればいいか、或いは、貸出利用者はなぜ減少するのか。こういうことを、どんどん揉んでいく必要があると思います。例えば広報活動をもっとやらなければいけない。大きく言えばテレビを利用するとか、町内の掲示板を大いに利用する。或いは、大村市の広報誌にミライｏｎ図書館のコーナーを設けて、そこに今の現状や、図書館を利用した感想なり、読書感想など簡単なものでもいいので、いろいろと方策はある

と思います。そこを初心に返ってやったらどうですかということです。

また、調べてあるかどうか分かりませんけど、市内の利用者と、市外の利用者の割合はどうなのか。それから先程大学生の話が出ましたけど、年齢層はどの年齢が一番利用しているのでしょうか。こういうものを含めて考えてみたらどうでしょうか。

大村市立図書館長　堀江　史佳

ありがとうございます。市内・市外の利用者の状況については、ほぼ80%が大村市の方で、年齢別になると、他の図書館は年齢層が高い方の利用が一番多いのですが、ミライｏｎに関しましては、30～40代の方の利用が一番多くなっています。それも、そういった方がどういう本を借りているかというと、児童書といって子ども用の本を借りて行かれる方が多いです。おそらく子育て世代の方が一番利用をしていただいているのかなと思います。児童書を自分のために借りるというのは、おそらく30～40代だとあまりないと思いますので、そういった利用が一番多いのも、ミライｏｎの特徴の一つだと考えております。

大村市長　園田　裕史

今言われた、一般的に図書館は普通年配の方が利用者として多いのですか。

大村市立図書館長　堀江　史佳

そうですね。

大村市長　園田　裕史

なるほど。もう１つ、県立図書館が長崎市にあったときの来館者はおそらく長崎市民が多かったと思うのですよ。長崎市に住んでいて、もともと県立図書館を利用してた人は、ミライｏｎにも来ていただけるニーズはあるはずですよね。

大村市立図書館長　堀江　史佳

もともと県立図書館が移転する前に、長崎市立図書館が整備されたというのがございますので、一般の利用者さんは、そちらである程度事足りていると考えられるのかなと思います。

大村市長　園田　裕史

分かりました。数字や割合から見えることは分析をするとして、今皆さん方のお声を聞いても、やっぱりミライｏｎというものが大村市の誇りや拠点であったり、シンボルですので、さらに力を入れていきたいと思います。今後とも、この節目でご意見をいただきましたので、また新たに新年度からも取り組んでいきたいと思います。今日いただいたご意見を、図書館としてはもちろん、また、我々企画部門としても、市長部局としても、図書館の利用を幅広くということを市全体として取り組みたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上が協議事項になります。一旦、事務局へお返しします。

企画政策部長　山中　さと子

ありがとうございました。

それでは次第「4.その他」に移ります。皆様から何かございますでしょうか。

次回は、教育委員会6月定例会と同じ日に開催いたしますので、後日ご案内いたします。

以上をもちまして、令和6年度第3回総合教育会議を終了いたします。

本日はありがとうございました。